

F-35 家事作業における適性について II

熊本大教育 奥村美代子

目的 前報にひきつづき、作業者の安定-不安定状態に関係する生理的・心理的要因の相違を分析し、これらに基づく家事作業方法の相違を観測する。これらを通して究極的には家事作業における適性を見出そうとするものである。

方法 前報の手続きにより抽出した安定群と不安定群との2群の被験者について、トレッドミル上の歩行による心拍間隔の変動とRMRとの関係を検討した。また前報にひきつづき、数種の精神作業ならびに筋肉作業を荷した。これらの結果に基づいて、家事作業について、同じ作業を繰り返す規定作業と、創造性が尠く自由作業とに区別して作業を行い、その作業過程をメモモーション測定器で記録し、作業分析を行い、両群における作業差を分析した。

結果 安定群と不安定群とでは、家事作業における規定作業と自由作業について、その作業過程と作業成績にそれぞれ異なる傾向が認められた。心拍間隔の変動とRMRとの関係についても、特長的な知見が得られた。